

## ピロリ菌（ヘリコバクター・ピロリ）と胃・十二指腸潰瘍

### ピロリ菌とは

ピロリ菌(ヘリコバクター・ピロリ)は、口から入り胃壁の細胞に付着している細菌として1983年に発見されました。発見当初から慢性胃炎の患者さんに多く見られたことから、胃炎と密接な関係にあると考えられていました。

### 潰瘍との関係

治りにくく(難治性潰瘍)、再発を繰り返す(再発性潰瘍)患者さんに除菌治療をしたところ、高率に潰瘍治癒を認め再発率が低下しました。

### 胃癌との関係

欧米では、胃癌患者さんの血液中にピロリ菌抗体を高率に認めたため、胃癌との関連が強く示唆されました。WHOではピロリ菌が胃癌発症の危険因子であると発表しました(1995年)が、日本人では65歳以上の人の約8割の方に感染があるという報告もあり、胃癌との因果関係はまだ充分には解明されていません。「いない人」より「いる人」の方がおよそ**5倍位危険**という報告もあります。

### 除菌療法

1990年代後半から欧米を中心に潰瘍治療薬と抗生物質の併用療法によるピロリ菌除菌療法が行われるようになりました。現在、萎縮性胃炎又は胃・十二指腸潰瘍の除菌療法に対しては、**胃内視鏡検査で確認された時だけ健康保険の適用**が認められています。

強い胃酸の中で胃壁に付いたピロリ菌に抗生物質を直接作用させないと効果が得られないので抗生物質を普通より大量・長期間服用する必要があります。そのため、出血性の下痢、肝機能障害等の副作用も心配されます。この治療でも、60～80%位の方にしか除菌は達成できませんが、除菌に成功した方では再発が高率に予防できるといわれています。

今日の胃内視鏡検査で、萎縮性胃炎あるいは潰瘍と共にピロリ菌の感染が確認された方は、この事を良く理解した上でピロリ菌の除菌療法を受けるかどうか考えてください。なお、除菌に成功したかどうかの判定には、除菌薬の服用終了後1ヶ月経ってから呼気テストなどで行います。

1回目の除菌がうまくいかなかった場合は、薬剤を変えて2回目の除菌を行うこともあります。

### < < 除菌治療の予定表(例) > >

薬	剤	:	7日間	6～8週後
<b>ポノサップ (PPI+抗生物質2剤併用)</b>			—————>	<b>&lt;正確に服用して下さい&gt;</b>
				治癒、除菌の確認—————>

**<お薬の服用中に具合の悪いことが起きたら、服用を中止してすぐ主治医にご連絡下さい>**

奈須内科  
TEL 055-263-6677